アジア太平洋戦争終結79周年
再び 暗黒政治許さない街頭宣伝

79年目の終戦記念日。二度と戦争しない決意と宣伝を国賠同盟は毎年行っています。今年は8月14日、救援会と一緒に長野駅前で行い、大石会長をはじめ8名が参加。旗と横断幕を掲げしっかり訴えました。

不屈
長野県版
第５２２号
2024年8月15日

治安維持法国賠同盟
長野県本部
〒380-8790
長野市県町５９３
高校会館内
連絡　大石信之
TEL　0268-38-7685

岸田首相 追い詰められ 政権投げ出し

自民政治にサヨナラ!!の絶好のチャンス

「不屈」編集部が怒りの表明

岸田首相は8月14日、次期総裁選に立候補しないことを表明し、3年で政権を投げ出してしまいました。パーティー券をめぐる裏金事件で、本人は何一つ責任を負わないだけでなく、政治資金規正法の改正では、その不正と疑惑の大本である企業団体献金の禁止には指一本も触れようともしない。国民と国会をこれほど無視し馬鹿にすることはありません。

内閣支持率が20％～10％台と低迷し、国民の批判にさらされ続けてきました。いくら厚顔無恥の岸田氏でも、ここまで追い込まれれば辞めざるを得ないことは当然です。

この3年間、国民の暮らし、医療福祉、教育子育て、議会運営等々何一ついいことはありませんでした。しかし、これほどまでに暮らし・平和・民主主義を壊した内閣は、戦後の自民党内閣でも他にありません。

岸田その最たるものは、集団的自衛権の行使・日米軍事同盟の一体化の下で、敵基地攻撃能力の保有、大軍拡大増税、軍事産業の育成、軍事兵器の輸出など戦争する国造りにまい進した政権はありません。

岸田首相の政権投げ出しは、自民政治にサヨナラの絶好のチャンスです。

今、自民党は9月末の総裁選をめぐり、その看板の架け替え劇に躍起となっています。マスコミはその応援団として連日報道しています。「日本のマスコミよ、襟を正せ！　そして権力にしっかりと対峙し、社会的存在意義を発揮せよ」と声を大にして訴えたいです。

市民と野党の共同こそ、自民政治に代わる最大の源泉です。

この人紹介

馬場信一さんの巻

ニックネームは「署名の馬場さん」

国賠署名の意義は「平和と人権を守ること」

国賠同盟の会議はもちろん、いろいろな集会や会議に出席されじっくりと話に聞き入る馬場信一さん。そんな光景に数多く出会います。

「この人紹介」にお願いしようと、上小支部のみなさんにお話したら「ぜひとも。馬場さんは署名集めがすごい」ということで、早速お伺いしました。

署名は「再び戦争と暗黒政治を許さないために、また、平和と人権を守るため、国賠同盟活動の第一義的な課題」とズバリ核心を。さすが「署名の馬場さん」というニックネームの異名をもつ馬場さんの言葉。その対象者は広く、日曜版の読者・いしずえ会の会員・親戚の方々・メーデーの会場で、そして、柄沢元会長さんと上田の会社や市役所なども回りました、と実に多彩です。断られたこともありますが快く応じてくれる方が大半でした。

そして、どんなきっかけで同盟に入られたかお聞きすると「父と親交のあった田中策三さん（共産党元県委員長）が葬儀の時見えられ、すすめられて入りました。昭和61年の8月でした。

岸田首相の退陣に話が進むと、「9条の改憲とか軍拡路線、裏金問題等で責任をとって辞めるのは当たり前です」と気合が入ります。若いころは、東京特殊電工とかKANETECで働き，現在があります。といつもの沈着冷静な馬場さに戻ります。

母　石坂玉江の思い出

谷口　集子

（長野中央病院元総看護師長）

去る七月九日、玉江は子や孫、ひ孫に見守られながら九十七年の生涯を閉じました。

昭和二年、旧中条村に生まれ、戦後は親戚の紹介で国鉄に就職、長野工場で旋盤工として働きながら、労働組合の出会いのなかで社会に目を向け、政治革新をめざすようになりました。

しかし、時代は「下山・三鷹・松川」事件が相次ぎ、反共の嵐が吹きまくる中、国鉄も戦争から復員し職場復帰した職員であふれかえり、母は「定員法」によって国鉄を馘首されました。

その後、新日本婦人の会の活動など関わりながら、父貞人とともに社会変革の道を歩み続けてきました。

家はずっと貧しかったものの、隣近所と明るく楽しく暮らした上松での長屋生活や父母に連れていかれた集会で、大人に交じって歌った「沖縄を返せ」など今でも忘れることができません。明るく穏やかで頑張り屋だった母が、私に口を酸っぱくしていった言葉が「手に職をつけなさい」でした。看護師として四十年以上働き続けられたのもこの母の言葉があったから。心から感謝しています。

国鉄時代に短歌のサークルに参加していた母は、百人一首も好きでした。姉妹四人で祖母の墓参りに行った時の一首。

七十年の才を重ねし　姉妹四人
道の為るを　墓に語りぬ

今は、先に逝った姉妹たちと楽しく語らっていることでしょう。

遺影は、5年前の総会に出席して、自らの人生と同盟の歴史に触れ、出席者を励ます玉江さん。玉江さんは国賠同盟県本部元事務局長・石坂貞人さんの妻

県内の動き

共同テーブル　市民と野党が政策で合意に

次は、いつ時も早い候補者調整

信州市民連合と立憲・共産・社民の3野党は、7月31日、長野市で「共同テーブル」を開催。市民連合が次期総選挙における6項目の基本政策（3党ともに内容的には異論なく合意）を3野党に要望。3党がそれを尊重することを口頭で確認。このことを関係する市民とマスコミの前で誓約するという形式で、市民と野党の共闘が正式確認されました。

長野県でのこれまでの共闘形式は、市民と野党と候補者による「協定書」又は「確認書」という形態で共闘が成立しましたが、今回は、立憲民主党中央本部が、「要望書」でなければ認めない、という強い主張により、きわめて変則的な形となりました。その論拠は明確にはなりませんが、推測するには、連合に対する配慮かと思われます。市民連合としては、「確認書」の原則を貫くという立場もありますが、共闘を一歩進めることが重要との立場で「要望書」形式を認めました。

9月末の自民党の総裁選後の国会で、解散総選挙が有力視されているので、289の小選挙区での候補者の調整、一本化が急がれます。今度の総選挙で自民党・保守勢力が一番恐れているのは市民と野党のしっかりした共闘です。それだけに野党共闘に対する分断・妨害のし烈化も予想されます。

政策に合意する野党代表

2・4事件

ただ一人の校長　岩田健治

井出節夫著『岩田健治 若い魂』出版記念

今に生きる岩田健治を熱く語る

1933年2月4日未明を期して始まった「2・4事件」の大弾圧は、検挙者は600名を超え、内教育関係者は230名に上がりました。その中で管理職は、北佐久郡の高瀬小学校長・岩田健治ただ一人でした。

井出節夫さんは、この岩田に焦点をあて、当時の日本と県内、佐久地方の社会と経済を徹底して掘り起こし、その中で岩田健治の思想と行動を解き明かしました。

この『岩田健治 若い魂』の出版記念会が、実行委員会の主催により7月27日、佐久市臼田のあいとぴあを会場に行われ、50名が参加しました。

著者の井出節夫さんが岩田さんの思想や活動、そして教育者としての人柄などについて1時間にわたり熱く語りました。井出さんは、その中で、2・4事件時代の思想や行動を、戦後間もない日本の農民運動や社会革新運動、そして統一戦線などで岩田健治ぐらい実践した人はいないことも明らかにするなど重要な提起もなされました。

出版記念会は、第2部として、お酒も入った懇親懇談会が行われ30名が参加しました。全ての参加者が、2・4事件、岩田健治、佐久地方の産業経済などについて語り、楽しいつどいとなりました。

講演する井出節夫さん

モンゴルへの乗馬の旅

なんと 真夏に大雪が！

（二）

塩尻・木曽支部　三浦　みを

手記（2）

「間もなくモンゴル国際空港チンギス・ハン空港に着陸します。現地の気温は4度。」「えっ！4度？」みんな夏支度。半袖。ななちゃんがロビーでお出迎え。みんなロビーでトランクをあけてあったかいジャンパーを出し着込む。史朗はオーバーズボンも。

その日の昼ころから急に雪。かなりの大雪で雪かき車を出し、大変だったみたい。道が洪水で泊まる予定のテレルジにはとても行けない。他のホテルをななちゃんがなんとか見つけてくれて。ななちゃんの用意してくれたバスでウランバートル郊外のホテルに向かう。辺りの山々は真っ白。こんなんで馬に乗れる？　みなさんに可愛らしいお花をみせてあげれる？　不安で胸がいっぱい。

道路は舗装されていなくて雪がとけてどろどろ。可愛らしいホテルが見えてきてもうじきだ！と思ったその時、バスがぬかるみにはまってしまったのだ。ホテルから若者が何人か来てくれて掘ったり埋めたり！。バスはびくとも動かない。外は冷たい風が吹きまくっている。

《乗馬を楽しむ加藤さん夫妻》

ホテルまで歩こう！若者がふたり史朗の腕を抱えてひきずるようにして進む。私も必死でついて行く。史朗はとても歩けないと見た二人の若者は代わり番こに史朗をおんぶしてくれた。泥まみれの私たちの足跡がホテルのロビーにいっぱい。冷え切った身体に温かいスープと鶏肉のお料理がしみわたる。

床暖房のきいた可愛らしいお部屋。モンゴルにまた行こうよとわたしを励ましてくれたのが加藤善正さん。国賠の仲間。加藤さん夫妻と私と史朗の4人部屋。明るく昔話をしてくれる加藤さんに救われ、忘れてぐっすり。

夜のうちにバスは泥を抜け出しトランクも無事に届けてもらえた。テレルジに向かう道もなんとかなりそう。ななちゃんが明るくいう。過去のことは過去のこと。明日のことはわからない。今日をめいっぱい楽しもう！って。いつの間にか雪はみんな消えて夕方には無事にテレルジゲルキャンプに到着。

ホイガーおとうさんが年をとって史朗の面倒を前のようには見れないと聞いていたので心配だった。よそからベテランのおじさんを史朗のために見つけてくれたみたい。ありがたい。

初めての乗馬。一番に史朗を乗せてくれる。おじさんと若者二人で史朗をよっこらしょっともちあげる。史朗も自分の体を前に倒して乗ろうとする。苦も無く馬にまたがる史朗。おっこちないように太ももと鞍をしばりつける。馬にまたがった史朗は4年もの空きがまるで無かったみたいに自信に溢れてかっこいい。

ああ、よかった！みんなと馬に乗れた！ただただありがたくうれしい。雪の下で見れないと思った小さな花たちもあちこちに咲いている。夏が短いから大急ぎで咲くらしく花々の背丈も花もとても小さくてかわいらしい。

初めて乗馬をする仲間たちも、優しい馬とだだ広くてゆったりした風景とでじきに慣れて、それぞれ楽しんでいるみたい。

晩餐。ほんのちょっぴりのワインにすっかり酔っ払ってしまった私。あしたは引き綱なしで一人で乗るぞ！と張り切る加藤さん。

（以下次号に続く）